
2 得られた成果 事業成果報告書から

(1) 分野別の成果

■ものづくり分野

産

＜学校との共通認識＞企業と学校の交流が深まり、企業は教育現場や生徒への理解を深め、求める人物像について学校と共通認識を持つことができた。

＜企業内教育等の見直し＞生徒や教員に指導することで、担当者は仕事に関わる知識等の整理や学び直しができ、仕事や企業内教育の見直しにもつながった。

学

＜進路意識の向上＞職業人に触れ、知識や技術、礼儀や言葉遣い等、今の自分に足りないものを実感し、進路実現に向けて高い目的意識を持つようになった。

＜学習意欲の向上＞企業の仕事を経験することで、ものづくりに対する興味・関心が高まり、特に、専門教科の学習や技能取得への意欲が向上した。

官

＜ネットワークの構築＞本事業をきっかけに、地域の特性を活かしつつ、ものづくり人材育成のためのネットワークを構築することができた。

＜人材育成のための支援＞技能検定への挑戦のための支援、産業界と連携した企業見学や専門高校活性化のための事業など新たな動きが見られた。

■建設分野

産

＜学校への理解の深まり＞学校への訪問や生徒との交流が深まり、学校の現状や生徒の考え方について認識を新たにする契機となった。

＜意識の改善＞実習に真剣に取り組む生徒の姿勢に、事業者側も気を引き締めて業務への姿勢を見直す良い機会となった。

学

＜進路意識の向上＞自分にとって社会の厳しさを知ることができ、将来どのような社会人を目指して行くべきなのかを考えるよい機会となった。

＜学習意欲の向上＞いろいろなことが勉強になり、土木に関する考え方が変わり将来の進路のためになった。すすんで土木の勉強を学びたい。

官

＜連携の強化＞建設産業人材育成連携推進委員会を設置し、地域建設業と工業高校が、人材育成の連携を強化・深化できたことは大きな成果である。

＜指導力の向上＞ほとんどの教員が研修内容について、「役に立った」、「授業に取り入れたい」と回答している。

■ 農業分野

産

＜企業PR＞実習生を受け入れることによって、農業高校及び生徒の理解を得られた。また、生徒に職業の魅力を伝えることができた。

＜企業内教育等の改善＞社員の教育に役立った。自社のイメージ向上につながった。社員の士気の向上など職場が活性化した。

学

＜職業意識の変化＞実習をしてみて仕事の大変さや仕事の大切さなどを知った。「仕事は絶対手を抜いてはいけない」と思うようになった。

＜就職意欲の向上＞研修期間中に、やりたいことを見つけることができた。もっと牛について勉強をして、将来は牧場に勤めたいと思うようになった。

官

＜独自プログラムの開発＞農業大学校と農業系高校との交流協定を中心に据える本事業は、本県独自の地域産業の担い手育成プログラムとなっていくと考える。

＜早期人材育成＞学校と農業界が一体となり、高校段階からの担い手育成に向けての手だてを投入することができた。

■ 水産分野

産

＜企業活動への刺激＞高校生の若い発想に企業も刺激を受けて、新しい取組をやってみようという姿勢が出てきた。

＜意識の改善＞＜学校への理解の深まり＞学校への訪問や生徒との交流が深まり、学校の現状や生徒の考え方について認識を新たにする契機となった。漁業者や地域の事業所も、本事業を通じて水産高校の現状や生徒の考え方について認識を新たにする契機となった。

学

＜職業意識の変化＞実際に現場で働いてみて、どんな仕事をしているのかを知ることができたし、言葉遣いやコミュニケーションの大切さも知ることができた。

＜就職意欲の向上＞体験漁業に参加したが、漁業にかける熱い思いを感じた。私も皆さんのような漁船員になりたいと思うようになった。

官

＜独自プログラムの開発＞指導方法や管理等、漁協や企業等の人的資源を活用した実践的なプログラムの構築が可能となった。

＜連携の強化＞漁業・水産業界とのネットワークが構築されるとともに、水産高校が漁業・水産業界への人材供給機関として再認識された。

(2) 生徒の変容

就業意識が高まり、働くことのすばらしさを知る

【事業前】
10人前後

漁業・水産業・水産
関連産業への就職

【事業後】
18～21人

社会人・職業人として働く意欲や情熱が向上した
「働くことの楽しさ」を学んだ

94%

100%

学習への興味・関心、意欲が高まる

【事業前】
3～4人

農業技術大学校への
進学者

【事業後】
8～11人

「もっと習いたい」「技術者による授業を増やしてもらいたい」
学ぶ目的・目標が明確になり、学ぶ意欲が向上した

72%

82%

地元産業を知り、興味・関心が高まる

【事業初年度】
生徒の72%

地域産業への理解が
深まったと回答(生徒)

【事業最終年度】
生徒の100%

地域企業で働くことに興味関心を持つようになった
実習先の企業に就職したいと思うようになった

83%

76%

資格取得への意欲が高まり、技能・技術が向上する。

【事業前】
3人

技能検定 機械加工
(普通旋盤)合格者数

【事業後】
13人

「短期現場実習」で技能・技術が向上した
「長期現場実習」で「資格を取得したい」と思った

93%

100%

(3) 成果の普及や事業自立化への取組

《普及》

マニュアル・ガイド・副教材でひろめる

- 学校側と企業側の具体的な実施要領として、「**企業実習実践マニュアル**」を作成する。
- 授業での活用、他地域の高校の参考として「**足場の基礎技能実習ガイド**」、「**鉄筋の組立て技能実習ガイド**」などの「**副教材**」を作成する。

学習プログラムでひろめる

- 地域農業を担う人材育成に向けた**学習プログラム**（「農業技術大学校における宿泊研修」、「農業法人等現場実習」など）について、県における高等学校農業教育の中核に位置付け、**継続していく**方向で検討している。

データベースでひろめる

- 3年間の各モデル校での事業実践内容など、貴重な教育資源をデータベース化した「**人材育成連携企業データベース**」を活用し、人材育成プログラムの継続支援ツールとする。

《自立》

ネットワークで大きく育てる

- 自立化を図るために各地域に「**草の根ものづくり人材育成ネットワーク会議**」を組織し、事業の推進を図ってきた。事業終了後についても、自立的に継続し実施するため、各地域に「**地域ネットワーク推進協議会**」を設けて、**産学官が連携したものづくり人材育成を推進するネットワークの構築**を図る。

基金で大きく育てる

- 就農を希望する農業高校生等には**農業体験**や**実践的な実習**が効果的であることから、**担い手育成基金を活用した事業**（農業高校生のインターンシップ受入経営体等への助成）を創設する。